

設計工程で作成した3DCADと製造後の実物をARで重畳して位置のズレと形状の違いを確認【新たな使い方】

No.	16	分野	全般	プロセス	施工
目的	違いの判別 (設計図面と出来形のズレと形の違いを把握)			撮影・可視化対象事項	位置(位置のズレを把握) 形状(形状の違いを把握)
技術要素	AR/VR/MR、BIM/CIM			活用効果	品質

■背景および技術用途

- 立体構造物に対し、「設計図面通りに製造されているか」を正確かつ効率的に検査することは困難
- 設計工程で作成した3DCADのデータと製造後の実物を簡単に比較するための仕組み
- 一つの製造部材の診断に要する時間は、従来と比較して10分の1に削減

■技術詳細

- AR技術により、タブレットの画面上に製造物と3DCADを重ね合わせた画像を表示できるため、右図のようにボルト孔位置のズレを把握可能
- 診断結果はサーバに保存され、ノウハウ共有、進捗管理、品質記録として利用可能

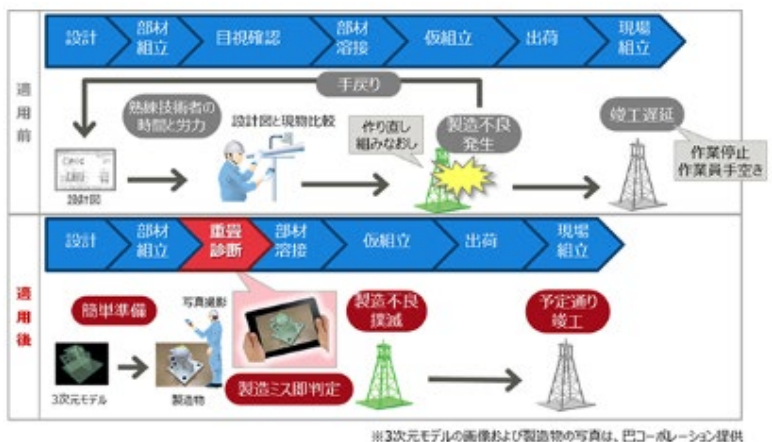


図 作業工程の比較



図 AR技術で加工位置のズレを把握